

「吉田松陰歴史館」の開館の目的

ここは単に古い遺物を並べた歴史館ではありません。透徹した史観を主張する全く新しいタイプの歴史館です。

その目的とする所は、日本人にとって史上最大の政治的革新・明治維新の原動力となった吉田松陰先生の全貌を知って頂くにあります。

萩の貧しい下級武士の家に生れ、幼時より学問の道に志し、幾度かの激しい試練を経て思想上の脱皮を重ねつつ、遂に革新の道を突き進み、僅か数え年三十才にして江戸にて刑死。

その短い人生が日本の歴史を変えた、といわれる先生の思想と行動力、幾多の英傑を育てた 松下村塾の教育、学問に生涯を捧げて

遅ましく変貌してゆくその激しい精神の過程を見て頂く事にあります。

戦後の吉田松陰先生の知名度は

吉田松陰先生とは、松下村塾とはの最近行われたアンケート調査によると、名前は聞いた事があるがそれ以上は全く知らないが最も多く、良く知っているのは僅か8%でした。

吉田まつかげとは如何なる人か、まつした村塾とは、ナショナル電気と関係があるのかという質問も、如何にも戦後らしく、全く無関心の方も少なくない。

吉田松陰親の推移

松陰先生に関する著書は個人では最高で、明治時代には二十冊、大正で二十五冊、昭和は敗戦までに百九十冊に達しており、維新を開いた勤皇の健児、日本男子の好標本と賞讃

されておりました。

然し、時代の推移と共に、松陰像は日本の政治体制によって変化させられてきました。

戦時中は、臣民教育の手段として忠君愛国の根源にすえられ、ファシズムのシンボルにまつり上げられたのであります。ところで、その故に、戦後の松陰先生は勤王攘夷の反動家として一時白眼視されておりました。

昭和二十五年、奈良本辰也氏が岩波新書の「吉田松陰」を出版、マスコミに一石を投げました。この一石は大きな反響を巻き起し、左右の両陣営から猛然たる批判が殺到しました。

松陰論はここに再検討、再評価の的になり関係著書が続出して、戦後から現在までに六十四種出版され、そのブームは今も静かに続いております。

★記念スタンプ押印欄

その独特の展示方法

その展示方法は日本では類を見ないもので、有名な英国の蠅人形館「マダム・タッソー」と同様な手法をとり、等身大の蠅人形七十余体を、幕末の萩の城下のセッパに配して、歴史上の重大な一瞬を再現しているのです。

誠に臨場感に溢れ、説得力も強く、歴史教育の絶好の場となっております。

その内容に対する評価と感想集

松陰研究家グループは「虚像を排し、よく実像に迫っている。透徹した史観で吉田松陰をとらえ、簡潔、平易にその一生を述べてい

る。歴史教育の場として感銘が深い。」又、「松陰先生の生涯には無数の教訓が含まれている、学問を志す者にとって特に注目したいのは大きな勇気を与えられる事である」と評価されました。学問と思想に、ストイックといわれるまでの姿勢で突き進んでゆく松陰先生の生涯は、若い方に瑞々しい感動と共感を得ていただける事と存じます。

これは、目で見る吉田松陰のすべて！
短かくも激しいその生涯を七十余体の等身大蠅人形にて再現！



吉田松陰歴史館

ゆかりの地・松陰神社境内

山口県萩市椿東 松陰神社境内 TEL0838-26-9116